

Climate Integrate “What's GX-ETS ?” Appendix 1

2026.3 作成

附属資料 1 第 1 フェーズの仕組みと暫定評価

ここでは、GX-ETS の第 1 フェーズの仕組みを概説し、現在までの取り組みについて公表されている情報に基づき、暫定評価を行います。

1. 第 1 フェーズの仕組み¹

GX-ETS の第 1 フェーズ（2023 - 2025 年度）は、以下のルールで自主的に実施されています。

・ 制度対象者

GX リーグ参画企業が任意に参加できます。CO₂の直接排出量が 10 万 t-CO₂以上の企業は、排出量の算定結果に対する第三者検証が必要ですが、10 万 t-CO₂未満の企業は検証が任意で、超過排出枠の創出も認められていません。

・ 排出枠の割当と目標達成方法

直接排出量が、自主目標排出量もしくは NDC 相当排出量（基準年度から 2050 年カーボンニュートラルへ直線削減した水準で機械的に算定、図 A1-1 参照）のいずれかを下回れば目標達成とみなされます。達成できなかった場合は、排出枠の調達や非化石証書・J-クレジット・JCM を利用して排出枠の不足分を補うことができます。

・ 超過削減枠の創出

超過削減枠の創出は自主目標水準とは関係なく、直接排出量が NDC 相当量より少なく、直接+間接の排出量が直近の排出量（2020 - 2022 年度平均）より少ない場合、差分を超過削減枠として申請でき、NDC 排出相当量との差分の削減枠が付与されます。制度開始前から NDC 相当量を下回っている場合は、直近排出量との比較や、目標排出量を基準とする代替条件が適用されます。各年度に、年度単位の差分を創出申請することもできます。

¹ GX リーグ「[GX-ETS における第 1 フェーズのルール](#)」2022.5

・基準年度

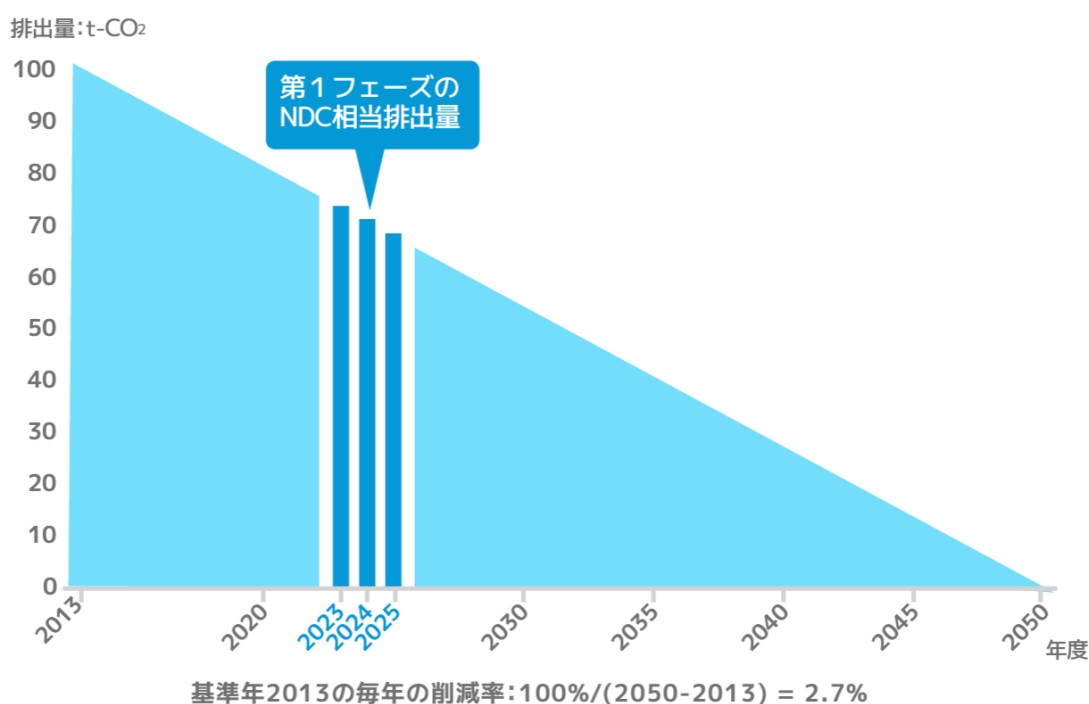
原則 2013 年度ですが、2014～2021 年度の設定も可能です。2013 年度を基準年度に選んだ場合はその単年、その他の場合は当該年度を含む連続する 3 年平均の排出量を用います。

・排出量算定

排出量の算定は、地球温暖化対策推進法の GHG 算定・報告・公表制度を基礎にします。GX-ETS では直接排出量を超過削減枠として取引対象とするため、他者に供給した燃料・電気・熱に係る排出を自社の直接排出として算定・報告します。

図 A1-1 GX-ETS 第 1 フェーズの「NDC 相当排出量」の考え方

(直接排出量が 10 万 t-CO₂の企業が、基準年度として 2013 年度を選択した場合)



Climate Integrate作成



出典：経済産業省「排出量取引制度の詳細設計に向けた検討方針」をもとに Climate Integrate 作成

・第 1 フェーズの流れ

2023 年度参画企業は 2023 – 2025 年度の総計について、2024 年度参画企業は 2024 – 2025 年度の総計について、直接排出量と間接排出量の目標を提出します。あわせて、2025 年度・2030 年度

排出枠の割当方法	グランドファザリング方式（GF）
超過削減枠の創出	自主目標と関係なく、直接排出量が NDC 相当排出量より少なく、直接+間接の排出量が直近の排出量（2020 - 2022 年度平均）より少ない場合、NDC 相当量との差分が付与
外部クレジット利用	非化石証書、J-クレジット、JCM
排出量算定	地球温暖化対策推進法の GHG 算定・報告・公表制度を基礎。他者に供給した燃料・電気・熱に係る排出を自社の直接排出として算定・報告。

出典：GX リーグ資料をもとに Climate Integrate 作成

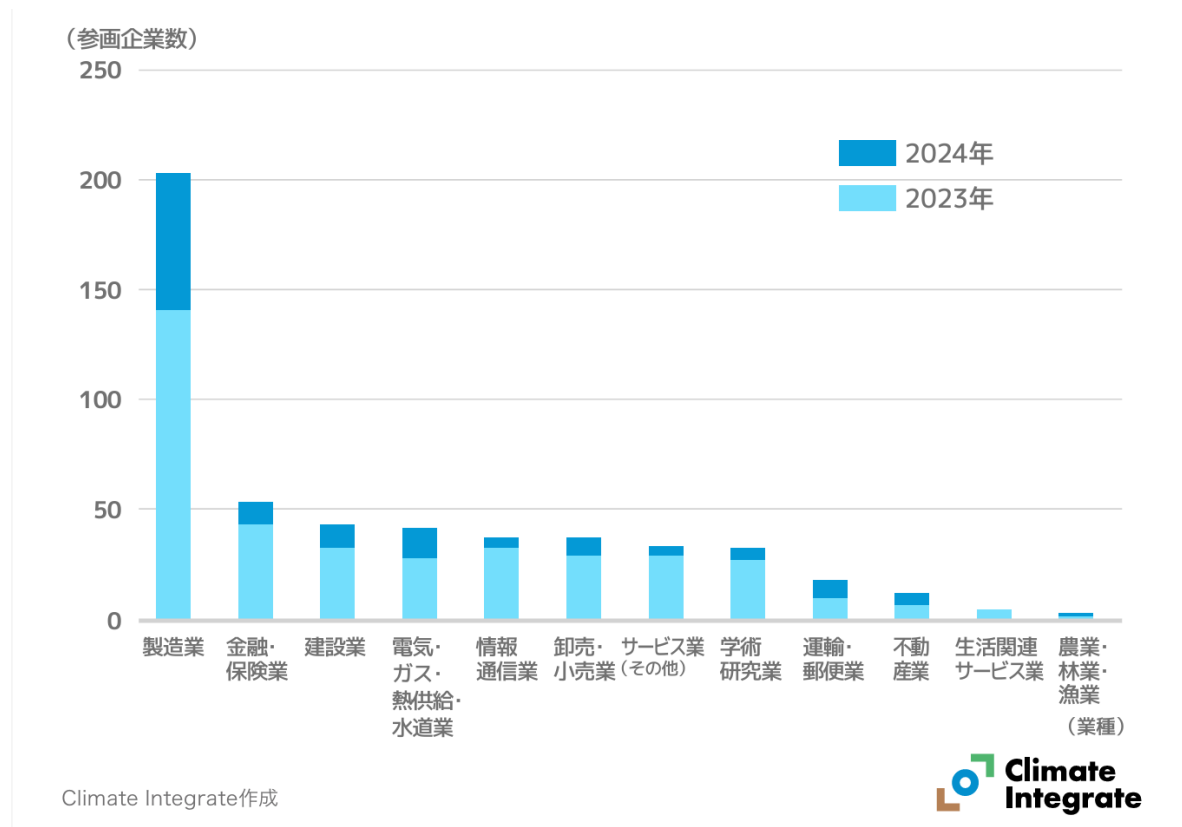
2. 第1フェーズの暫定評価

ここでは、GX ダッシュボードに情報を公開している GX リーグ参画企業に基づき、暫定的に第1フェーズの目標と進捗を分析します。対象は620社のうち、データ品質と整合性の観点から109社を除外し、511社を分析対象とし、各社の2023年度実績、目標値、基準年度排出量、基準年度から算出したNDC相当量を用いました（2025年9月28日時点の公開情報）。

分析結果

・参画企業

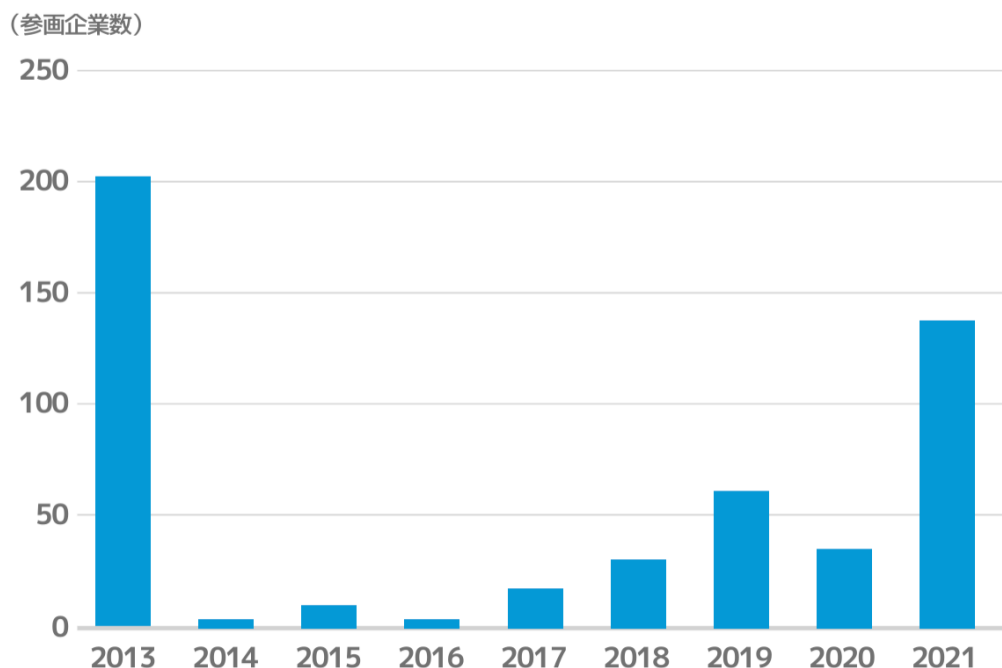
GX リーグ参画企業は、2023年度の制度の立ち上時の440社から、2024年度にも増え740社をこえています。業種も、製造業やエネルギー関連に加えて、サービスや運輸など多様な業種に広がっています（図 A1-3）。

図 A1-3 GX リーグ参画企業：業種・参画年別


・基準年度の選択

基準年度の選択については、2013年度と2021年度に大きく集中しており、2013年度を基準とする企業は203社（40%）、直近の2021年度は139社（27%）で、両年で全体の約7割を占めます（図A1-4）。

図 A1-4 GX リーグ参画企業：基準年度別



Climate Integrate作成



・自主目標の野心度

各社の短期（第1フェーズ：2023-2025年もしくは2024-2025年）・中期（2030年）の目標について、NDC相当排出量（2050年ネットゼロへ直線で削減する経路）より厳しい目標排出を設定している場合を「野心的」、低い場合を「消極的」と整理すると、短期のフェーズ1では消極的が多く、中期の2030年度では野心的が多く、多くの業種でフェーズ1期間の足元の対策はNDC相当排出量水準に届かず、2030年に向けて削減をNDC相当排出量水準に引き上げる計画の企業が多くなっています（表A1-3・図A1-5）。業種ごとでは、製造業は、2030年時点でも消極的が多数派を占めており、排出規模が大きい製造業の野心度が伸び悩むことは制度全体の実効性に影響します。

表 A1-3 GX リーグ参画企業の第1フェーズの自主目標の野心度*

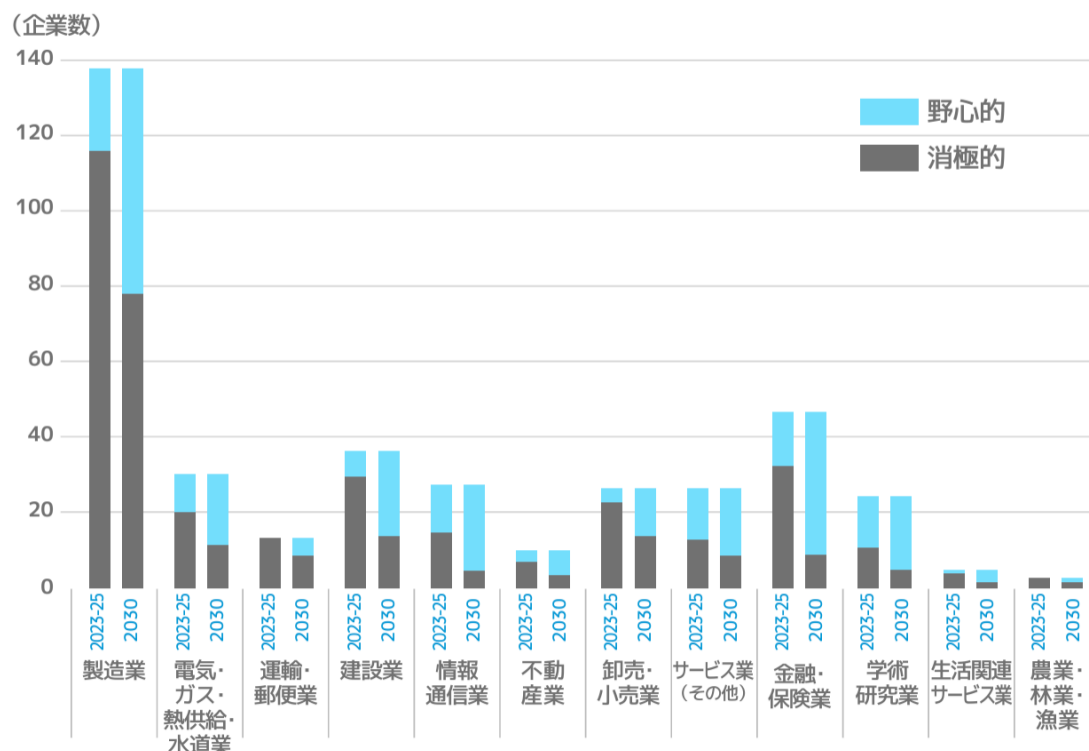
		野心的	消極的
短期：第1フェーズ (2023/2024-2025)	全対象 380 社	27% (102 社)	73% (278 社)
	うち製造業 138 社	16% (22 社)	84% (116 社)
中期：2030 年度	全対象 380 社	60% (228 社)	40% (152 社)

	うち製造業 138 社	43% (60 社)	57% (78 社)
--	-------------	------------	------------

*NDC 相当排出量と比較し、より厳しい自主目標排出量を設定している場合「野心的」と整理

Climate Integrate 作成

図 A1-5 GX リーグ参画企業の目標の野心度（業種別・目標年別企業数）



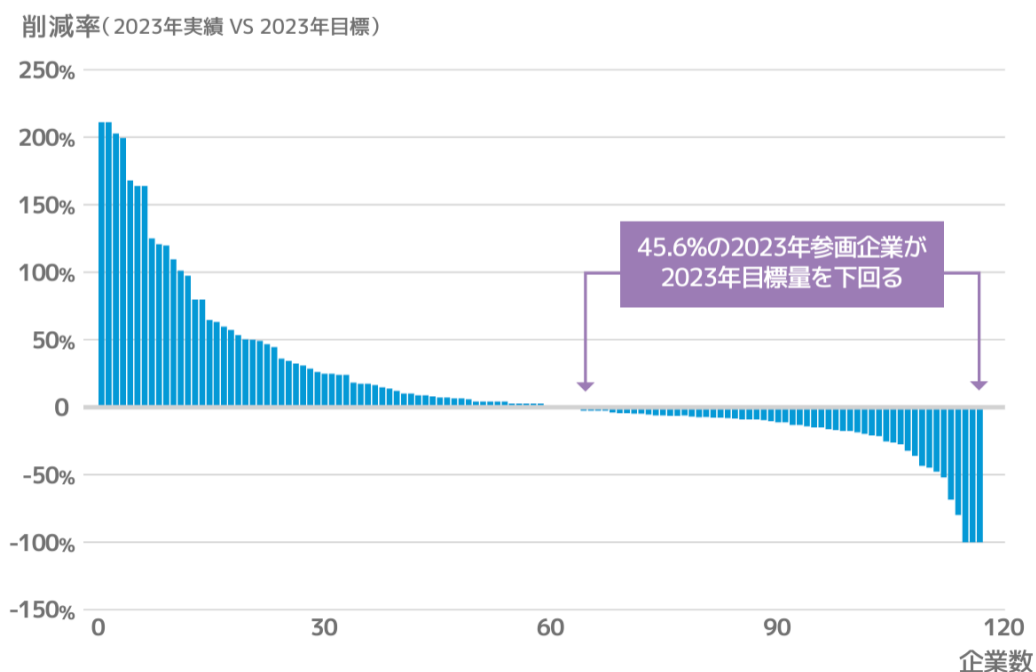
Climate Integrate作成

・目標達成状況

NDC 相当量よりも野心的な目標を設定している企業の場合、NDC 相当排出量に届けばフェーズ 1 目標は達成とみなされますが、2023 年度実績とフェーズ 1 合計目標（年均等に配分した相当目標値（= 目標÷3））とを比較すると、45.6%の企業が自社の目標水準を上回る削減を達成しています（図 A1-6）。このことは、自主的な制度であるために達成可能な低い目標を慎重に設定した企業が多くあるのと同時に、NDC 相当排出量よりも厳しい目標を自ら設定し、対策を引き上げる余地を与えているともいえます。ただし、実際の野心度を評価する上では、過去の排出実績や生産増減の実態などが把握した上での検証が必要です。

図 A1-6 GX リーグ参画企業の目標、達成状況：2023 年度実績排出量と同年目標量の削減率

(負の数が目標水準を上回る削減の達成を表す)



Climate Integrate作成



以上より、第1フェーズの目標設定においては、NDC相当排出量が一定程度ベンチマークとして機能している一方で、企業が設定する短期目標（2023～2025年度）は全体として「消極的」であり、2030年に向けて野心度が高まる傾向が見られます。したがって、自主的な第1フェーズの枠組みのもとでは、早期の追加的対策が進みにくい可能性が示唆されます。

また、NDC相当排出量よりも厳しい自主目標を掲げる企業のうち、約半数が目標達成水準にあることについては、過去の排出実績や生産増減の実態把握による検証が必要であり、本評価はあくまで簡易的な整理であり、単純な優劣判断には留意が必要です。